

国語科

1 結果の概要

※グレーの項目は習熟基準を下回ったもの

	問題のカテゴリー	習熟基準%	正答率%	昨年度
1	漢字の読み	82.5	98.0	91.4
	漢字の書き	73.5	85.4	69.2
2	文法に関する知識	72.5	78.8	77.0
	語句に関する知識	78.8	86.3	83.4
3	文学的な文章の読み取り	65.0	87.8	70.6
4	説明的な文章の読み取り	64.0	77.9	67.1
5	作文	66.3	73.9	66.8

全体の正答率は、習熟基準を上回りました。学習内容の定着はおおむね満足できる状態であると判断できます。問題のカテゴリー毎の正答率でも、習熟基準を上回りました。

2 結果の分析と解説

(1) 漢字の読み・書き

	出題のねらい	履修学年	習熟基準%	正答率%
①	「漢字ステージ3・4年生」の漢字を読むことができる。	3・4年	90	99.1
②			90	100.0
③			85	99.1
④			80	99.1
⑤			75	95.6
⑥			90	99.1
⑦			85	99.1
⑧			70	98.2
⑨			80	95.6
⑩			80	94.7
①	「漢字ステージ3・4年生」の漢字を書くことができる。	3・4年	80	86.7
②			75	71.7
②			75	83.2
④			80	76.1
⑤			60	78.8
⑥			80	96.5
⑦			85	98.2
⑧			65	98.6
⑨			65	86.7
⑩			70	80.5

「漢字の読み」、「漢字の書き」については、「漢字の書き」で2問だけ習熟基準を下回りました。その他の漢字については読み書きともに習熟基準を上回り定着している状態と考えます。引き続き「漢字ステージ100」で学習した後に定着度を定期的に調べ確認する学習をしていきます。

(2) 言語事項 (文法・語句)

	出題のねらい	履修学年	習熟基準%	正答率%
(1)	主語・述語の意味を知り、文の中での働きを知ることができる。	3・4年	70	85.0
(2)	修飾語の意味を知り、文の中での働きを理解することができる。		65	92.0
(3)	接続語の働きを理解し、適切に使うことができる。		80	96.5
(4)	伝聞と推量の違いについて理解し、正しく使うことができる。		75	41.6
(5)	指し示す言葉の使い分けについて理解している。		85	95.6
(6)	漢字の音と訓の違いについて理解している。		75	66.4
(7)	漢字を構成する要素に部首があることを知り、部首の名前を理解している。		80	91.2
(8)	多義語について理解し、文中での意味を使い分けすることができる。		75	92.0

言語事項に関しては、8項目中6項目で習熟基準を上回り、「伝聞と推量」と「漢字の音と訓の違い」の2つの項目で習熟基準を下回りました。短文作りの中で伝聞と推量の語句の意味や使い分けを理解しながら繰り返し学習する必要がありますと考えます。また、漢字の学習をしたときに音読みと訓読みを明確にして、学習し定着を図るようなことが必要であると考えます。

(3) 文学的文章

	出題のねらい	履修学年	習熟基準%	正答率%
(1)	叙述をもとに、場面の移り変わりを読み取ることができる。	3・4年	60	77.9
(2)	叙述をもとに、登場人物の気持ちを読み取ることができる。		60	85.8
(3)	叙述をもとに、登場人物の気持ちを読み取ることができる。		70	94.7
(4)	叙述をもとに、登場人物の様子を読み取ることができる。		70	92.9

文学的文章では、全ての設問に対し習熟基準を上回っています。学習内容の定着は、満足できる状況にあると考えられます。

今後も、叙述をもとに、登場人物の気持ちや様子を読み取ったり、場面ごとにまとめたりして、物語全体の流れに沿って、気持ちや様子の移り変わりを整理することで理解を深めていきます。

(4) 説明的文章

	出題のねらい	履修学年	習熟基準%	正答率%
(1)	細かい点に注意しながら文章を読み、文脈を理解することができる。	3・4年	75	92.9
(2)	段落相互の関係をとらえることができる。		55	77.0
(3)	細かい点に注意しながら文章を読み、文脈を理解することができる。		60	85.8
(4)	細かい点に注意しながら文章を読み、文脈を理解することができる。		70	83.2
(5)	内容を大きくまとめながら文章を読み、筆者の意見を読み取ることができる。		60	50.4

説明的文章では、4つの項目で習熟基準を上回り、「内容を大きくまとめながら文章を読み、筆者の意見を読み取ることができる。」だけが下回りました。学習内容の定着度はやや努力を要する状況と考えられます。要旨をまとめる・段落構成を考える学習を進める中で、事実と筆者の意見を読み取る学習に力を入れて、定着を図ることが必要であると考えます。

(5) 作文

	出題のねらい	履修学年	習熟基準%	正答率%
(1)	決められた字数の中で適切に書くことができる。(121～180字で書く)	3・4年	80	72.6
(2)	考えが明確になるように、段落相互の関係を考えることができる。(二段落構成で書く)		60	70.8
(3)	メモの内容を一つも落とさずに見学の目的を書くことができる。		65	73.5
(4)	メモの内容を一つも落とさずに見学してわかったことを書くことができる。		60	78.8

作文については、「決められた字数の中で適切に書く」の項目だけが習熟基準を下回っていますが、書く力をおおむね身に付けていると考えられます。

さらに段落構成なども考えて、書いた文章を子ども同士で検討し合うなどして、目的や相手に応じた分かりやすい表現を工夫させる学習を重点に展開してまいります。

3 結果から明らかになった課題

(昨年度の結果を踏まえた改善・対策についての検証)

- ◇ 朝学習・ステップアップ学習で、漢字の読み書きの指導を繰り返してきたことにより、児童の漢字力が高まってきている。
- ◇ 「漢字ステージ100」の練習を繰り返しと同時に、家庭に協力を依頼したことで定着率が上がったと考えられる。
- ◇ 年3回の読書週間や保護者ボランティアによる読み聞かせなどにより、児童の読書量が増えた。その結果、語彙が増え、文章を読む力が高まってきている。
- ◇ 日常的に作文や日記を書かせたり、スピーチ活動に取り組みせたりしたことで、伝えたいことを相手に分かりやすく表現できるようになってきた。

- ① 「漢字の音読み、訓読み」についての理解を図ること
 - ・漢字の学習をする際に、音読み、訓読みやその意味や活用法を明確に示し、漢字の反復練習をするときに合わせて学習できるように意識させる。
- ② 「主語・述語」について理解を図ること
 - ・言語事項を扱う単位だけではなく、読解の単位でも意図的に「主語・述語の関係」を意識して、文章を読むようにさせ、繰り返し指導していく。
- ③ 「叙述をもとに、登場人物の気持ちの移り変わりを読み取る」の習熟を図ること
 - ・「気持ちの移り変わりを読み取る」には、意味段落ごとの登場人物の気持ちを読み取り、時間の経過とともにどのように変化していったのかを表現に着目させながら整理する学習活動を重視して取り組む。
- ④ 「細かい点に注意しながら文章を読み、文脈を理解する」の習熟を図ること
 - ・文脈を理解するためには、語と語、文と文、段落と段落の関係に着目させ、指示語や接続語の指導に重点をおくことが大切である。また、文章全体の文章構成図や3部構成を理解するなどの指導を充実していく。

4 今後の改善・対策

- ① 漢字の音読み、訓読みの理解を図る
 - ・1～4年生は朝学習で、5・6年生は朝学習とステップアップ学習で漢字の書き取りや読み方の指導の際に音読みと訓読みの区別、語句の意味や活用法を明確に示し、指導します。
 - ・定期的にステージごとの漢字テストを行い、繰り返し学習し定着できるまで指導します。
 - ・学習プリントを用意し、家庭での学習が充実するよう、保護者に協力を要請します。

- ②「主語・述語」についての理解を図るために
- ・言語事項の指導の際に、主語と述語を意識した短文作りを取り入れ、繰り返し指導します。
- ③「叙述をもとに、登場人物の気持ちの移り変わりを読み取る」の習熟を図ること
- ・単純な文章から複雑な構成の文章を学年に応じて取り上げ、叙述を基に正確に読み取れるように、継続的に指導します。5・6年生は朝学習でも言語事項を指導します。
 - ・国語の文学的文章の学習において、登場人物の気持ちを読み取る指導に重点を置きます。目的に応じて、心情を表す語や文をとらえて、文章を読むことができるように指導します。
 - ・文章中のキーワード、接続語、指示語などの視点を明らかにして、それらの語句に着目しながら読み取らせます。
 - ・読書指導を継続します。学期に1回ずつ読書週間を実施します。読書カードの活用など、児童の意欲を高める工夫をします。各学年の推薦図書を児童に提示します。また、保護者ボランティアや教員による本の読み聞かせ、児童相互の本の紹介などの活動を行い、読書に興味をもち、進んで本を読む環境を作ります。

5 学力の検証方法

- 学期末のテスト、学年末の漢字定着確認テストを全学年で行います。4月に2年生以上で観点別到達度学力検査（CRT）を行います。その結果を指導部会で分析し、各学年の課題を明確にするとともに、指導内容の重点や指導法の改善策を明らかにしていきます。
- 読書に関して各学期の読書週間に合わせて意識調査を行い、学校図書館システムにより学期ごとに全児童の読書量を把握し、読書の推進を図ります。
- 保護者会では主として学力向上のための指導体制や課題、家庭学習の取組について説明します。夏の個人面談では、学力調査の結果や普段の授業から個々の課題について話し合います。また、ホームページ、学校便り、学年便りで子どもの育ちや課題についてお知らせします。

社会科

1 結果の概要

※グレーの項目は習熟基準を下回ったもの

	問題のカテゴリ	習熟基準%	正答率%	昨年度
1	品川区の特色	71.9	79.6	78.0
2	暮らしの安全	86.7	82.6	87.0
3	健康な生活	73.3	66.4	75.4
4	東京の自然	67.5	86.3	61.1
5	昔と今の生活	67.5	65.5	60.0

全体の正答率は、習熟基準を上回りました。問題のカテゴリごとの正答率では「品川区の特色」「東京都の自然」は習熟基準を上回りましたが、「暮らしの安全」「健康な生活」「昔と今の生活」が習熟基準を下回ってしまいました。学習内容を再度見直し、どのカテゴリも定着していく必要があると考えられます。

2 結果の分析と解説

(1) 品川区の特色

	小問内容	履修学年	習熟基準	正答率%
(1)	利用客数のグラフを読む	3年	85	74.3
(2)	スーパーの店内の様子		80	92.0
(3)	スーパーでの工夫		70	80.5
(4)	製品と工場の種類		80	90.3
(5)	工場への通勤の様子		65	78.8
(6)	地図中の2点間の方位		70	77.0
(7)	地図の道順をたどる		65	75.2
(8)	地図の読み取り		60	69.0

品川区の特色についての学力の定着は、おおむね良好だと言えます。特に「スーパーの店内の様子」や「製品と工場の種類」など資料をもとに考える問題については正答率が高く、学習の定着度は良好であると言えます。一方で、「利用者数のグラフを読む」は習熟基準を下回ってしまいました。グラフをしっかりと読み取れるようにする必要がありますと考えられます。学校のまわりの様子については3問とも習熟基準を上回り、学習内容が定着していると考えられます。

(2) 暮らしの安全

	小問内容	履修学年	習熟基準%	正答率%
(1)	火事の時の指令内容	3年	90	66.4
(2)	品川区の火事件数		85	86.7
(3)	警察官の仕事		85	94.7

「品川区の火事件数」「警察官の仕事」など資料から読み取る問題は、学習の定着が良好であると言えます。ただし「火事の時の指令内容」が習熟基準を下回ってしまいました。火事が起きた時に、指令室から警察やガス会社、水道局などにどういった内容の連絡をしているのか再度理解させる必要があると考えられます。

(3) 健康な生活

	小問内容	履修学年	習熟基準%	正答率%
(1)	ごみ収集の仕方	4年	75	86.7
(2)	清掃工場の仕組み		80	94.7
(3)	ごみを減らす工夫		70	50.4
(4)	浄水場の役割と名称		80	79.6
(5)	家庭での水の用途		60	31.0
(6)	ダムと浄水場の位置		75	55.8

「ごみ収集の仕方」「清掃工場の仕組み」の学習では、定着度は良好であると言えます。「ごみを減らす工夫」の正答率が低かったのは、イラストからごみを出さないためにどう工夫しているか読み取り、さらに文章から正しく読み取ることが難しかったからだと言えます。また、「水とくらしの学習」では、正答率が習熟基準を下回ってしまいました。浄水場の役割や仕組みについて再度理解させる必要があると考えられます。また、資料を読むだけでなく、水道キャラバンや社会科見学など体験的な学習を通して、理解を進める必要があります。また、習熟基準を特に下回っている「家庭での水の用途」では、表から計算して答えを出すという問題なので、しっかりと文章を読むこと、計算ミスをしなないことを心がけることが必要だと考えられます。

(4) 東京の自然

	小問内容	履修学年	習熟基準%	正答率%
(1)	地下鉄駅の利用状況	4年	65	85.0
(2)	東京港と外国との関係		70	87.6

東京都についての学習では、習熟基準を大きく上回っており、定着度は良好であると言えます。

(5) 昔と今の生活

	小問内容	履修学年	習熟基準%	正答率%
(1)	洗濯機の昔と今	4年	75	65.5
(2)	炊事の道具の変化		60	65.5

「洗濯機の昔と今」は、昔の洗濯機の使い方がどういうものか説明する問題でした。昔の道具の使い方を絵と文で説明できるようにさせる必要があると考えます。

3 結果から明らかになった課題

- ① 「品川区の特色」では、グラフを読み取る問題で誤答が見られたので、資料を正確に読み取る練習を繰り返すことが必要です。
- ② 「暮らしの安全」では、おおむね満足できる状況でした。それぞれの機関が果たす役割を確実に理解するためにも資料を読むだけでなく、図にまとめる等ノートやワークシートに書く練習が必要だと考えます。
- ③ 「健康な生活」では、新聞作りなどの学習のまとめで、資料の内容を理解し、自分の言葉に直す等して効果的に活用し表現する練習が必要だと考えます。また、資料の読み取りは社会科に関わらず、算数などの教科でも練習していくことが必要だと考えています。
- ④ 「東京の自然」は満足できる状況でした。これまでの指導を継続していきます。
- ⑤ 「昔と今の生活」は、資料からわかったことを説明したり、ノートにまとめたりする練習が必要だと考えられます。

4 今後の改善・対策

- ① 資料の読み取りは、社会科で力を付けていく大事な学習なので、单元ごとに資料を読み取ったり、反対に伝えたいことを資料やグラフに表したりさせるなどの活動を重視して取り上げ、力を付けさせていきます。
- ② 社会科の基本的な知識は、学習や单元末・学期末テストで、定着できるまで繰り返し学習させていきます。
- ③ ふだんから授業の中で用語の示す内容を正確に表現したり、表記したりする練習を続けていき、また新聞作りなどの学習のまとめで資料を自分の言葉に直させて表現できるようにしていきます。

5 学力の検証方法

- 学期末のテスト、学年末のテストを全学年で行います。4月に2年生以上で観点別到達度学力検査（CRT）を行います。その結果、児童には繰り返しテストを行い確実に理解させるとともに、学年会で結果を分析し、課題を明確にするとともに、指導の重点や授業改善方法を明らかにしていきます。
- 保護者会では主として学力向上のための指導体制や課題、家庭学習の取組について説明します。夏の個人面談では、学力調査の結果や普段の授業から個々の課題について話し合います。また、ホームページ、学校便り、学年便りで子どもの育ちや課題についてお知らせします。

算数科

1 結果の概要

	数と式の意味と計算	量と測定	図形と計量	数量関係	資料の分析
習熟基準平均%	78.0	75.0	73.0	73.8	76.7
正答率平均%	82.6	80.3	72.7	87.1	84.7
昨年度	85.3	83.6	73.8	81.4	79.6

各領域の正答率は、「図形と計量」を除いて習熟基準を上回り、算数科の学習内容の定着度はほぼ満足できる状態であると判断できます。特に「数量関係」「資料の分析」の2領域については学習内容がしっかり定着していると考えられます。

習熟度別学習を行ったことが有効であったと考えられ、今後も児童の発達の段階をふまえ、この能力に応じた指導を進めていきます。

2 結果の分析と解説

(1) 数と式

※グレーの項目は習熟基準を下回ったもの

		出題のねらい	履修学年	習熟基準%	正答率%
1	①	「3けた+3けた」の筆算のしくみを理解し、計算することができる。	3年	85	95.6
	②	「3けた-3けた」の筆算のしくみを理解し、計算することができる。		80	92.9
	③	「1-真分数」の意味を理解し、計算することができる。		85	94.7
	④	「2けた÷1けた(あまりあり)」の計算のしくみを理解し、計算することができる。		85	91.2
	⑤	「2けた×2けた」の筆算のしくみを理解し、計算することができる。	4年	85	80.5
	⑥	「3けた×2けた」の筆算のしくみを理解し、計算することができる。		75	84.1
	⑦	「何百÷1けた」の計算を、除法の性質を用いて簡単に計算することができる。		80	90.3
	⑧	「3けた÷2けた(あまりあり)」の計算のしくみを理解し、計算することができる。		70	75.2
2	①	「小数+小数」の計算のしくみを理解し、計算することができる。	3年	90	94.7
	②	「小数-小数」の計算のしくみを理解し、計算することができる。		85	97.3
	③	「整数-小数」の計算のしくみを理解し、計算することができる。		80	92.0
	④	「小数(第二位)+小数(第二位)」の計算のしくみを理解し、計算することができる。	4年	85	92.9
	⑤	「小数(第一位)-小数(第二位)」の計算のしくみを理解し、計算することができる。		75	85.0
	⑥	「小数×整数」の計算のしくみを理解し、計算することができる。		70	82.3
	⑦	「小数÷整数(商は小数第二位を四捨五入)」を計算することができる。		65	67.3
	⑧	「整数÷整数=小数」の計算のしくみを理解し、計算することができる。		70	69.9
5	カードを並べて9けたの最も小さい数をつくることができる。	4年	70	53.1	
6	5けたの数を四捨五入して、上から2けたの概数にすることができる。	4年	80	80.5	
7	小数のしくみを理解し、数直線を読み取ることができる。	3年	75	95.4	
8	小数のしくみを理解し、千分の1の位までの数を表すことができる。	4年	80	85.8	
9	わり算のきまりを使って計算し、何倍かを求めることができる。	4年	75	94.7	
22	①	手持ちの硬貨の組み合わせを考え、おつりの硬貨の枚数が最も少なくなる組み合わせを選ぶことができる。	3年	50	40.7
	②	片方の目盛りを隠した大きな数の数直線から、1目盛りの大きさを変えた数直線をつくることができる。	4年	70	62.8

この領域では、ほとんどの問題で習熟基準を上回りましたが、除法では、小数÷整数の計算とともに正答率が習熟基準を下回りました、特に、整数÷整数では回答に小数点のつけ忘れが目立ちました。整数の加減の計算については、しっかりと定着していると言えます。また、小数の計算についても、おおむね定着しています。「小数第二位を四捨五入して小数第一位まで求める」という指示の意味をきちんと理解できるように、四捨五入についての理解を深めさせることが必要です。練習を多く取り入れ、計算方法を定着させる必要があります。

(2) 量と測定

		出題のねらい	履修学年	習熟基準%	正答率%
11	①	ある時刻の35分後の時刻を求めることができる。	3年	80	92.0
	②	2つの時刻から、その間の時間を求めることができる。		70	66.4
12	①	長さの単位 km について理解し、問題の状況に適した長さの単位を選ぶことができる。	3年	80	99.1
	②	面積の単位 m^2 について理解し、問題の状況に適した長さの単位を選ぶことができる。	4年	80	90.3
13		ひょう量 1kg のはかりの目盛りを読み、2つのはかりの重さの和を求めることができる。	3年	60	51.3
14		分度器を使って、決められた大きさの角を作図することができる。	4年	70	85.0
15		ひと組の三角じょうぎを組み合わせてつくった角の大きさを求めることができる。		70	83.2
16		長方形を組み合わせた形の面積を求める式の意味を理解し、求め方の図と一致させることができる。		70	75.2

この領域においては8問中6問が習熟基準を上回りました。学習内容の定着度は、満足できる状況であるといえます。しかし、はかりの目盛りの読み方については、ひと目盛りの示す大きさについて、単なる知識ではなく、生活と結びつけながら繰り返し、実感をもたせることを大切にしていきたいと思えます。

(3) 図形と計量

		出題のねらい	履修学年	習熟基準%	正答率%
17	①	二等辺三角形の定義を理解し、与えられた3辺の長さから、二等辺三角形にならないものを選ぶことができる。	3年	80	92.9
	②	球の直径と半径の関係について理解し、図中の長さを求めることができる。		75	90.3
18	①	ひし形の定義を理解し、多数の図の中から、ひし形を選ぶことができる。	4年	70	70.8
	②	正方形、長方形、台形、ひし形、平行四辺形の対角線の特徴を理解し、表にまとめることができる。		70	17.7
19		箱の形の辺と面の長さに着目し、指定された雨傘の辺の数を求めることができる。	2年	70	92.0

この領域においては、台形、ひし形の性質について十分な理解の定着が図られていなかったことがわかりました。四角形に関して、その性質、成り立ちを作図の機会を十分にとるなどして理解を深めさせる指導をしていく必要性が明らかになりました。二等辺三角形の性質や箱の形の辺と面についてはほぼ定着しています。

(4) 数量関係

		出題のねらい	履修学年	習熟基準%	正答率%
3	①	四則混合の計算のしくみを理解し、計算することができる。	4年	70	90.3
	②	かっこ付四則混合計算のしくみを理解し、計算することができる。		70	92.9
	③	四則に関して成り立つ性質を使って計算することができる。		70	68.1
4		減法の文章問題(求残)を理解し、答えを求めることができる。	3年	85	94.7

この領域においては、4問中3問習熟基準を上回りました。学習内容の定着度は、ほぼ満足できる状況であるといえます。特に、四則混合の計算では十分な学習効果を上げています。しかし、計算の性質に関する知識は、計算の技能とともに、式や言葉をノートに書きまとめる等して確実に理解させる必要があります。文章題では、問題の意味や考え方の順序を理解させたり予想させたりして、筋道を立てて考え、ノートに書いたり説明したりする学習を展開していきます。

(5) 資料の分析

		出題のねらい	履修学年	習熟基準%	正答率%
20		二次元表のつくり方を理解し、空欄に数を埋めて完成させることができる。	4年	70	69.0
21	①	気温の変わり方の折れ線グラフを読み取ることができる。	4年	70	95.6
	②	折れ線グラフの傾きから、変化の特徴を理解することができる。		60	89.4

この領域においては、2問が習熟基準に達しています。数値やグラフの関係を理解し、数値をあてはめていく学習を中心に指導を進めていきたいと思います。

3 結果から明らかになった課題

(昨年度の結果を踏まえた改善・対策についての検証)

- ◇ 四則計算の指導の徹底を図ったために、計算の技能の正答率が向上した。
- ◇ 指導助手や講師を活用した習熟度別指導の指導形態をとってきたことによって、個に応じたきめ細かい指導が実現でき、基礎・基本の学力を確実に習得させることができた。
- ◇ 授業を振り返ることで、筋道を立てて考えることができたり、見通し持つことができるようになったりした。
- ◇ より効率的な解法とはどういうものなのかが分かるようになってきた。

- ① 計算について定着を図ること
 - ・ **位取り十進法、小数の意味について常に意識させる**学習・指導が必要である。
 - ・ 計算する前に**答えの見通しを立てて**から計算することを習慣化させる。
 - ・ 計算のあと、見通しをたてた答えに照らし合わせて、その答えでいいのかどうかを検証させる。
- ② 指導計画の妥当性 (**図形領域等重点とする領域の指導**)
 - ・ 各種の学力調査の結果の分析を十分に行い、分析結果を踏まえた年間指導計画を立て、指導内容の重点を明らかにし指導法の改善を図る。
- ③ 3年生の学習内容について習熟を図ること
 - ・ 既習の学習内容について十分に身に付いていない児童に対する個に応じた学習体制を確立する。関連する単元を学習する導入やまとめ、朝学習、放課後に「**東京ベーシックドリル**」などを活用し、**児童の学力を掌握し、立ち返りや繰り返しの指導**を行う。

4 今後の改善・対策

- ① 計算の技能の習熟を図ります
 - ・ 四則計算を確実に習得するために、**児童のつまづき、少数の計算を分析**し、適切に診断して繰り返し学習する個別指導の時間を確保します。
- ② 指導計画の修正をします。
 - ・ 定着度の不十分な単元を重点課題とし、指導時数を増やします。また、指導方法を改善していきます。特に「**図形と計量**」項目における「**四角形の特徴**」についての**授業を重点**に指導します。
- ③ 指導体制を見直します。
 - ・ 1、2年生は、指導助手を活用した T.T. や少人数指導、配慮を要する児童の個別指導に活用し、工夫して授業に活用します。
 - ・ 3～6年は、全単元で2学級3分割の習熟度別指導・少人数指導を実施し、個を大切にしたい指導を行います。
 - ・ 5、6年ステップアップ学習では、四則計算の徹底と課題別学習を実施します。
 - ・ 学力が十分に身に付いていない児童には、関連する単元を学習する導入やまとめ、朝学習、放課後に「東京ベーシックドリル」などを活用し、児童の学力を掌握し、立ち返りや繰り返しの指導を行います。

- ④ 授業観察や研究授業を通して、教師の指導技術の向上を図ります。
 - ・ 問題解決型授業を多く取り入れ、算数的な活動を重視して、既習事項や経験などを活用して自力解決すること、さらに児童の話し合いや協働学習によって思考力や表現力の向上を目指していきます。また、ノート指導や学習感想を通して児童の実態や理解度を明らかにし、その後の指導に役立てていきます。
- ⑤ 家庭学習の充実をめざします。
 - ・ 家庭と連携して家庭学習のルール作りをしていきます。

5 学力の検証方法

- 4月に観点別到達度学力検査（CRT）を行います。児童には繰り返しテストを行い確実に内容を理解させます。結果については、学年会で分析し、課題を明確にするとともに、指導の重点や授業改善方法を明らかにしていきます。
- 保護者会では主として学力向上のための指導体制について説明し、保護者の理解を得られるようにします。春と秋の個人面談では、学力調査の結果や普段の授業から個々の課題について話し合います。また、ホームページ、学校便り、学年便りで児童の学習習慣が確立できるよう配慮します。

理科

1 結果の概要

※グレーの項目は習熟基準を下回ったもの

	問題のカテゴリー	習熟基準平均%	正答率平均%	昨年度
1	生命	75.0	83.0	81.6
2	物質	65.0	70.2	75.6
3	エネルギー	72.5	79.5	80.2
4	地球	68.3	85.1	72.7

すべての問題のカテゴリーで習熟基準を上回りました。正答率は習熟基準を5.2～17.8ポイント上回り、学習内容の定着度は、良好であると考えられます。

2 結果の分析と解説

(1) 生命

		出題のねらい	履修学年	習熟基準%	正答率%
1	(1)	記録カードの書き方を理解し、正しく書くことができる。	4年	90	99.1
	(2) あ	トノサマガエルの四季の様子を理解している。	4年	80	94.7
	(2) い	トノサマガエルとその他の動物の四季の様子を理解している。	4年	70	64.0
2	(1)	ヒョウタンの育て方を理解し、正しい時期にプランターに植え替えることができる。	4年	60	86.8
	(2)	ヒョウタンの茎の伸びのグラフと気温のグラフの関係を読み取ることができる。	4年	80	77.2
	(3)	気温が高いと植物の成長が盛んになることを理解している。	4年	70	76.3

6つの項目のうち4つで習熟基準を上回り、2つが下回りました。特に記録カードの書き方についてはほぼ全員が理解していました。「動物の活動の様子と季節の関係」では、トノサマガエルについてよく理解している一方、他の動物との共通点や関係がよく理解できていませんでした。ヒョウタンの伸びについても気温との関係が十分にとらえられていませんでした。

(2) 物質

		出題のねらい	履修学年	習熟基準%	正答率%
1	(1)	粘土を細かくちぎっても、重さが変わらないことを理解している。	3年	70	92.1
	(2)	同じ体積の木と鉄をてんびんにのせた時、てんびんがどうなるか考えることができる。	3年	60	78.1
2	(1)	空気は温度によって体積が変化することを理解している。	4年	75	93.0
	(2)	空気と水では、温度による体積の変化の仕方が違うことを理解している。	4年	60	21.9
	(3)	温度と体積の関係が日常生活に利用されている例として、正しいものを考えることができる。	4年	60	65.8

5つの項目のうち4つが上回り、1つが下回りました。学習内容の定着は概ね良好であるといえます。特に「重さの保存」や「温度と体積の変化の関係」など、観察・実験を通して学習した内容はよく理解できています。一方、空気と水の体積の変化の仕方の違いについては、実感を伴った理解が不十分であったと考えられます。

(3) エネルギー

		出題のねらい	履修学年	習熟基準%	正答率%
3	(1)	3枚の鏡で日光をはね返してできた図で、明るさの違いを考えることができる。	3年	75	80.7
	(2) あ	3枚の鏡で日光をはね返してできた図で、温度の違いを考えることができる。	3年	70	78.1
	(2) い	温度計を正しく読むことができる。	3年	80	84.2
	(3)	虫めがねを使って日光を集めた図で、虫めがねの位置による明るさの違いを考えることができる。	3年	80	79.8
	(4)	虫めがねを使って日光を集めた図で、虫めがねの位置による温度の違いを考えることができる。	3年	70	72.8
7	(1)	身近な道具の中で、磁石につくものはどれか理解している。	3年	65	87.7
	(2)	磁石の極について理解し、2つの磁石の極どうしを近づけた時どうなるかわかる。	3年	70	87.7
	(3)	磁石をカップにのせて水に浮かべた時、磁石のN極がどの方角を指すか考えることができる。	3年	70	64.9

8つの項目のうち、6つの項目で習熟基準を上回りました。学習内容の定着度はある程度満足できる状況であると判断できます。しかし、「虫めがねの位置と明るさの関係」や「磁石の極が指す方角」などの理解がやや不十分で、日常生活の中で使う機会が少ないものについてしっかりと経験に基づいた理解をさせることが大切だと考えます。

(4) 地球

		出題のねらい	履修学年	習熟基準%	正答率%
4	(1)	百葉箱の役割や名称を理解している。	4年	55	78.1
	(2)	1日の気温の変化のラフを読み取ることができる。	4年	80	92.1
	(3)	晴れの日と雨の日の、1日の気温の変化の違いを理解している。	4年	70	85.1

3つの項目のうち、全ての項目で習熟基準を3つの項目で上回り、学習内容の定着度は十分だと考えられます。

3 結果から明らかになった課題

- ① 自然の事物を対象にした観察や実験では、実物を利用した学習や体験を重視した学習が必要である。
- ② 実験結果を記録する場合には、実験の目的を明確にすることと見通しをもって実験をすることが必要である。
- ③ 実際に体験したことを記録にまとめるときには、その現象を知識と結び付けてできるようにすることが必要である。
- ③ 一つ一つの事象を理解するだけでなく、4年生が身に付ける資質である「事象と原因の因果関係」を理解させ、関係性を考えられる力を身に付けさせる。

4 今後の改善・対策

- ① 「観察・実験の充実」を図ります。
 - ・観察・実験は、観察のポイントを明確にしたうえで観察するだけでなく、正しい観察・実験の器具の使い方を明確にして、その使い方になれるために繰り返し行っていきます。
- ② 「実験の記録」について習熟を図ります。
 - ・習熟を図るために、問題解決学習の流れに沿って授業を進め、常に実験の目的を明確にしなが結果を踏まえて考察・まとめをする活動を行います。
- ③ 「体験と知識を結び付けて考えること」について習熟を図ります。
 - ・習熟を図るために、体験したことをモデル化したり共有したりする学習を意図的に取り入れ、身に付けるべき知識を確実に理解できるようにします。
- ④ 各単元・学期ごとのテストで、習熟な不十分な児童は繰り返し行い、確実に理解できるようにします。
 - ・課題が明らかになった内容について立ち返りの指導を行い、次の学年に向けて確実に理解させていきます。

5 学力の検証方法

- 学期末のテスト、学年末の確認テストを全学年で行います。また、4月に3年生以上で観点別到達度学力検査（CRT テスト）を行います。その結果、児童には繰り返しテストを行い確実に理解させるとともに、学年会で結果を分析し、課題を明確にするとともに、指導の重点や授業改善方法を明らかにしていきます。
- 「観察カード」に関して各学級で同じ形式のものを使い、観察するごとに評価して返却し、教室に掲示します。共有化することで、観察カードへの記録の仕方を知り、繰り返し記録することで習熟が図れるようにします。その際、観察の器具の使い方についても記録するようにして、観察カードへの記入内容、方法の質の変化を評価します。